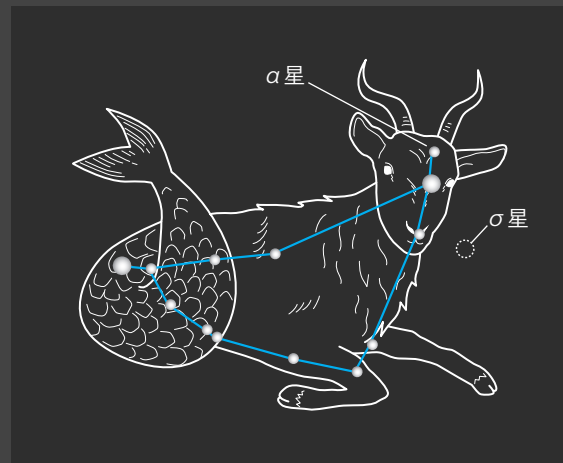


やぎ座



南の空に小さな星が逆三角形をつくる「やぎ座」は、プトレマイオスが定めた 48 星座の一つです。ギリシア時代には人間が昇天するときの入り口とみられ、「神々の門」ともよばれていました。また、この星座の σ 星（シグマ）の近くは、1846 年にフランスのルベリエとイギリスのアダムスが計算で予言した海王星が、ドイツのガッレによって発見された歴史的な場所でもあります。

神話では、森と羊と羊飼いの神パンの姿が伝えられています。神々がナイル川の岸辺で酒宴を開いていたとき、怪物テュフォンが突如現れました。驚いたパンは大慌てで魚に変身して川へ飛び込みましたが、あまりに慌てふためいていたため、水から出ている頭は山羊のまま、水に浸かった下半身だけが魚という奇妙な「魚山羊」の姿になってしまったといわれています。

見どころとしては、山羊の頭の部分にある「肉眼二重星」の α 星（アルファ）のペアが挙げられます。二つの星がごく接近しているものを二重星と呼び、やぎ座の頭にもそれがあります。3.6 等の星と 4.2 等の星がありますが、その間隔は 6.3 分角です。これは満月の直径の 5 分の 1 ほど離れているため、夜空が暗い場所であれば肉眼でも二つの星を見分けることができます。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）

今月の見どころ星どころ

秋の夜長に楽しむ「満月の高さ」

9 月といえば「中秋の名月」を思い浮かべる方も多いでしょう。古くから秋の満月は一年の中で最も美しいとされてきましたが、これには天文学的な理由があります。

その秘密は、季節による「満月の南中高度（真南にくる際の見かけの高さ）」の違いにあります。満月は常に太陽のほぼ真反対の位置に存在するため、昼間の太陽が高く昇る夏は、夜の満月は低い位置しか通りません。逆に、太陽が低い冬は満月が高く昇ります。これに対し、秋の太陽は赤道付近を通るため、その反対側にある満月も、高すぎず低すぎない「最も見上げやすいほどよい高さ」に昇ってくるのです。

さらに、この時期は夏の湿った空気が去り、夜空の透明度が増すことも月が美しく見える条件を後押ししています。

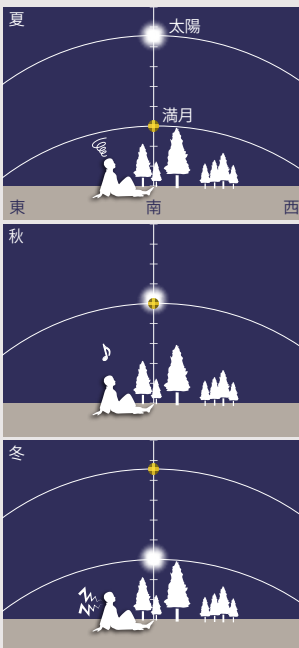
ただ美しいと眺めるだけでなく、太陽と地球、そして月の位置関係がもたらす天体のメカニズムに注目してみてください。宇宙の絶妙な配置を感じながら、秋の夜長に名月を見上げてみませんか。

参考図書：月のきほん
（白尾元理著 / 誠文堂新光社）

イメージ：季節ごとの太陽、満月の南中高度と見え方 ▶



文・浜松市天文台
村松 大河



星空クイズ

2026 年の「中秋の名月」は 9 月 25 日ですが、天文学的な「満月」はいつ？

- A 9 月 25 日（同日）
- B 9 月 26 日（翌日）
- C 9 月 27 日（翌々日）

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

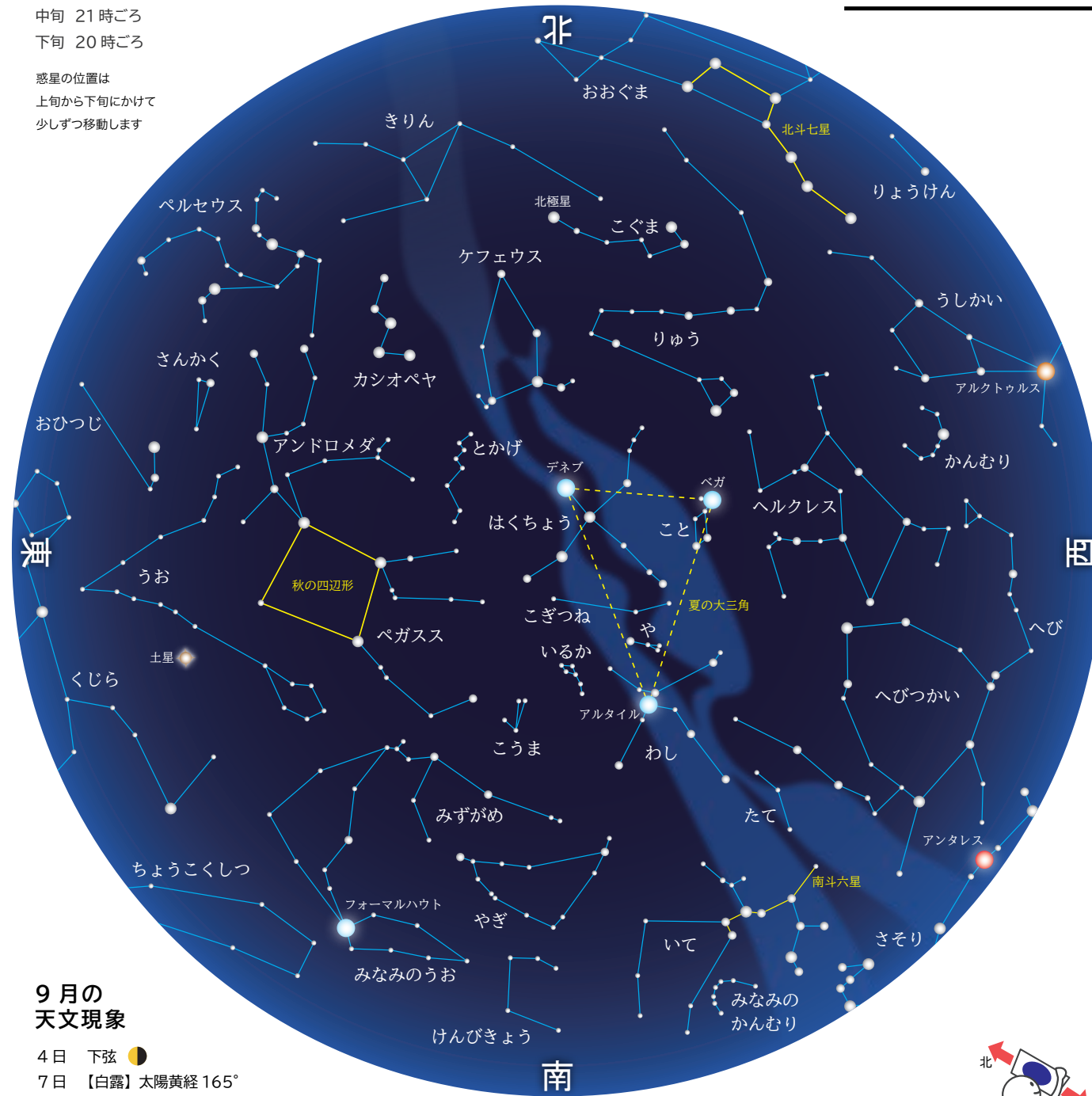
2026 年 9 月

上旬 22 時ごろ

中旬 21 時ごろ

下旬 20 時ごろ

惑星の位置は
上旬から下旬にかけて
少しずつ移動します



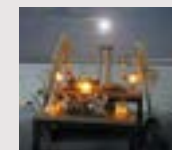
9 月の天文現象

- 4 日 下弦 ●
- 7 日 【白露】太陽黄経 165°
- 11 日 新月 ●
- 19 日 上弦 ●
- 金星が最大光度
- 23 日 【秋分】太陽黄経 180°
- 25 日 中秋の名月
- 27 日 満月 ●

上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。



少しずつ夜風が涼しくなり、秋の気配を感じる 9 月。今月の一大イベントといえば、やっぱり「中秋の名月（お月見）」です。お月様が 1 年で一番きれいに見える季節、いつもより少しのんびりとお団子を食べながら、満月を眺めてみるのはいかがでしょうか？ 虫の音を BGM に、秋の夜長を贅沢に楽しんでみてください。





浜松市天文台

イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。



ウェブサイトはこちら



9/5・12・19・26

土

NG

星空観望会

宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間

19:30～21:00

会場

天文台屋上

申し込み

開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごとと先着20組)

9/5

土

OK

めざせ!望遠鏡マスターコース

基本の操作技術を習得できます。星空観望会でも練習を重ねて、自分の力で星を見つけましょう。

時間

18:30～19:30

会場

2F 講座室

申し込み

9/2 (水) 13時から受付 (先着6人)

対象

小中学生

9/19

土

OK

天文ミニ講座 ～今夜の星空がもっと楽しくなる～

星座と今夜の星の見どころについて、星空案内人がお話します。星空観望会で、星空を見るのがより楽しめます。

時間

18:30～19:20

会場

2F 講座室

申し込み

9/16 (水) 13時から受付 (先着10組)

9/26

土

OK

天文講座「宇宙と時間」

「時間」という視点から、宇宙の不思議やスケールの大きさを分かりやすく紹介します。

時間

15:00～16:30

会場

2F 講座室

申し込み

9/9 (水) 13時から受付 (先着15組)

対象

高校生以上

10/4

日

OK

天文工作教室 ～万華鏡を作ろう～

天文工作や星に関するお話をします。工作と観望を楽しみましょう。

時間

18:30～19:30

会場

2F 講座室 / 天文台屋上

申し込み

9/23 (水) 13時から受付 (先着20組)

9/6

日

NG

太陽・昼間の星 観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時間

14:00～16:00

会場

天文台屋上

申し込み

予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。

9/25

金

NG

中秋の名月観望会 (スマホ de ムーン)

お月見をしましょう。スマホのカメラで月の撮影にも挑戦しましょう。

時間

19:30～21:00

会場

石人の星公園

申し込み

予約の必要はありません。直接会場にお越しください。

9/27

日

OK

ソムリエ観望会 ～中秋の名月～

星空案内のガイドツアー付き観望会です。星のソムリエ®がご案内します。

時間

19:00～21:00

会場

天文台屋上

申し込み

9/16 (水) 13時から受付 (1時間ごとと先着9組)

10/18

日

OK

天文講演会

世界最大級!野辺山 45m電波望遠鏡で見た宇宙

野辺山宇宙電波観測所 所長 西村淳氏による講演会です。

時間

14:00～15:30

会場

1F ホール

申し込み

8/26 (水) 13時から受付 (先着50組)

対象

小学生以上

裏面のクイズの答え：正解は、C（今年は、中秋の名月よりも9月27日未明の月の方がより真ん丸になります）

浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」をお楽しみいただけます。

※9/8～11はメンテナンスのため休館いたします。

ブログはこちら

プラネタリウム

9/18まで

彗星と行く! 太陽系一周ツアー

2026 7.14 → 9.18

今年の夏はプラネタリウムで太陽系一周ツアー! 彗星と一緒に、旅を始める前に注ぎよう!

ツアーガイドは 40年前地球の近くにやってきた 000彗星?

観望時間 9/18 (土) 14:20～15:15 13:00～13:55 15:40～16:35

9/19から

月がきれいな夜に話したい 3つのこと

秋はお月見の季節ですね。月にまつわる 3 つのことをご紹介します。

平日 14:20～15:15 土日祝 13:00～13:55 15:40～16:35

プラネタリウム

9/19から

星空マルシェ

Starry Sky Marche

～解説員による星空解説、宇宙の話～

2026年 4月1日～

平日 15:40～16:20 土日祝・長期休暇期間 10:30～11:10

気軽に観られる美術館のプラネタリウムです。6人の解説員それぞれが得意な分野で解説。日替わり企画「プラネタリウム」を常設展示しています。

9/19 (土) 14:20～15:15 10/1 (日) 13:00～13:55 15:40～16:35

キッズプラネタリウム

9/18から

るんやのおほしさま ～なつのはし～

きらきら☆こんやのおほしさま

土日祝 11:30～12:05 14:20～14:55

夜の科学館 特別放映

9/26(土)

月をみながら… ～心も体もリフレッシュ～

月にちなんだ曲を聴きながらリラクセス♪

18:00～18:40 19:00～19:40

月のクレーター

9月は月に注目が集まる時期です。今回は、月のクレーターについて深掘りしましょう。望遠鏡で月を見ると、無数のクレーターを確認できます。大気がない月は小天体が落下してくるとそのまま地面まで到達します。そして落下の衝撃で地面が凹み、クレーターとなります。地球は大気があるため、小天体は地面に到達する前に消滅することがほとんどです。地球と月、近くにあるのに、大気の有無でここまで地面の様子が異なるのです。「こんなに隕石がぶつかって月は痛くないのかな?」と思ってしまいましたが、変化に富んだ地形を楽しむことができるのもまた事実。クレーターの無いのっぺりとした月面だとしたら、望遠鏡でのぞく機会も多くなかったはず。

さて、“クレーター”はギリシャ語でコップやお碗を表します。ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で月を見た時、凹んだお碗のような地形が無数にあることを発見し、クレーターと名付けました。クレーターの数はこれまでの研究で10万個以上あることが分かりました。クレーターの中で最も大きいのは、月の南極にあるエイトケン盆地で、直径約2,500kmもあります。

多くのクレーターができたのは月ができたころ（太陽系誕生と同じ時期）で、46億年前～40億年前と考えられていますが、月は絶えず隕石の衝突にさらされています。古いクレーターの上に隕石が衝突して、新しいクレーターができることもあるでしょう。または巨大な隕石が衝突して古いクレーが無くなってしまふこともあるでしょう。ある一定の範囲のクレーターの数を数えて多ければ古い地質、少なければ新しい地質とする月の地質の年代を測定する方法があります。これに月探査機(アポロ、ルナ、嫦娥(じょうが))が採取した月の岩石の年代を調べて照らし合わせると、より確かな年代を知ることができます。その中で、今から約8億年前には分裂した小惑星のかけらが落下する「小惑星シャワー」が起こったという研究があります。このとき地球にも隕石が降り注いだに違いありません。地球は風化によってクレーターのようなはっきりとした痕跡はありませんが、8億年前を境に、生命活動に影響を及ぼす「リン酸」が海中で増加していたことが別の研究で分かっています。つまり、小惑星シャワーが地球環境を変化させた可能性があるのです。月のクレーターを調べているうちに、太古の地球を知ることができる…。クレーターは宇宙のタイムカプセルでもあるのですね。

参考・引用
月のきほん (白尾元理著/誠文堂新光社)、世界でいちばん素敵な 月の教室 (堀見正孝発行/三オックス)、
大阪大学 ポータルサイト Resou「8 億年前、月と地球を襲った小惑星シャワー」、
月探査情報ステーション、中国地質科学院地質研究所 最新の月面地質図、
Lunar impact crater identification and age estimation with Chang’ E data by deep and transfer learning

星空を楽しむ

夏を越える

9月です。夏が過ぎましたね。

……いや、たぶんですけど、過ぎてませんね。きっとまだまだ暑いですよ。

私は今、7月の初旬にこの文章を書いています。こちらはまだ、梅雨の真っ只中です。そちらはいかがですか？

夏の大三角は、天頂から少し西に傾く頃でしょうか。西の低空には、まだアルクトゥルスが見えていますか？

南東あたりにはきっと、フォーマルハウトがポツンと光っていますよね。秋の夜空は、明るい星が他の季節よりも少ないです。夏の暑さを冷ましてくれるような静かな寂しさが、私はとても好きです。穏やかな季節がいつも通り巡ってくることを、そっと教えてくれる気がします。なので、大丈夫です。このあと、ちゃんと夏の暑さは和らぎます。……たぶん。

私はこれから、夏を越えます。2ヶ月先の、9月の観望会でお会いしましょう。静かに輝く秋の星空を眺めながら「まだまだ暑いですね」なんて、笑い合えたら嬉しいです。それでは、また。

文・浜松市天文台事業協力者の会 伊藤彩希